

(10) 四 国



四国地域では、景気は足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。
- ・ 個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

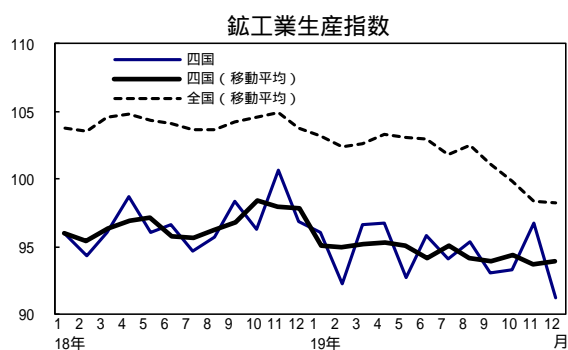
前回からの主要変更点

	前回(令和元年11月)	今回(令和2年3月)
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	足もとでは、 <u>新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる</u>
個人消費	持ち直しの動き	足もとでは、 <u>新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる</u>

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる。

10 - 12 月期には、化学・石油石炭製品は、医薬品等の生産が増加したことにより、増加した。食料品は、食用油脂等の生産が減少したことにより、減少した。電気機械は、減少した。はん用・生産用機械は、運搬用クレーン等の生産が減少したことにより、減少した。輸送機械は、船用ボイラ等の生産が減少したことにより、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10 月	11 月	12 月
化学・石油石炭	22.1	19.8	13.5	8.9	21.6	20.3
食料品	13.8	1.4	3.6	4.4	1.7	0.4
電気機械	12.8	4.7	2.3	2.2	0.9	0.8
はん用・生産用機械	11.3	10.3	10.7	6.7	0.3	0.9
輸送機械	7.9	17.0	6.9	1.9	0.9	17.6
鉱工業	100.0	0.9	0.5	0.2	3.6	5.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。

(備考) 1. 2015 年 = 100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱めの動きがみられる。

(1) 地域別消費総合指数(RDEI(消費))

10月は前月比6.8%減、11月は同1.1%増、12月は同0.7%減となった。

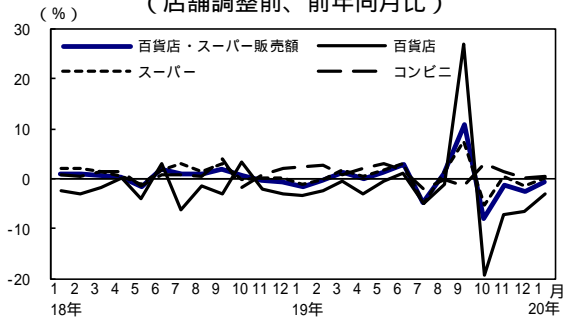
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、衣料品が振るわなかったこと等を受けて、前年を下回った。11月は、引き続き衣料品が振るわなかったこと等から、前年を下回った。12月は、身の回り品が振るわなかったこと等から、前年を下回った。1月は、前年を下回った。

スーパーは、10-12月期は、衣料品等が不振であったことから、前年を下回った。

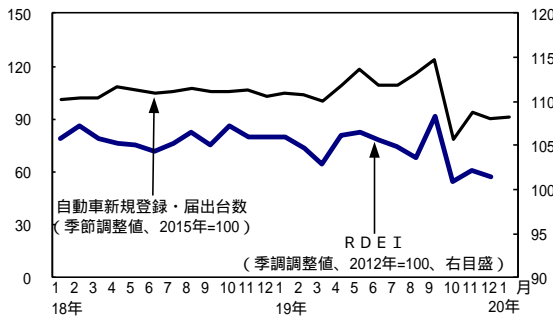
1月は、前年を上回った。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2019年 10-12月	2019年 10月	11月	12月	2020年 1月
RDEI(消費*1)	3.9	6.8	1.1	0.7	
百貨店・スーパー(*2)	3.8	8.0	1.1	2.5	0.6
百貨店(*2)	10.3	19.1	7.2	6.4	3.1
スーパー(*2)	2.0	5.3	0.5	1.3	0.1
コンビニ(*2)	1.6	3.1	1.5	0.1	0.4
乗用車(*3)	16.7	25.7	12.8	11.4	13.3
(季節調整値)(*3)	24.7	36.6	19.8	4.1	0.7

RDEI(消費)と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

2020年1月は速報値。

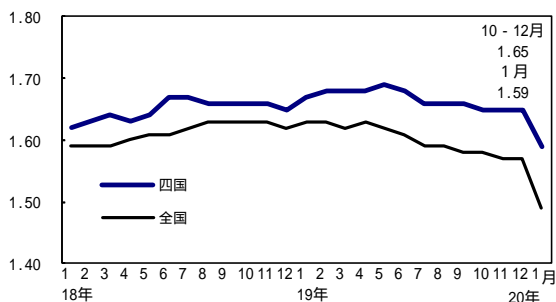
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

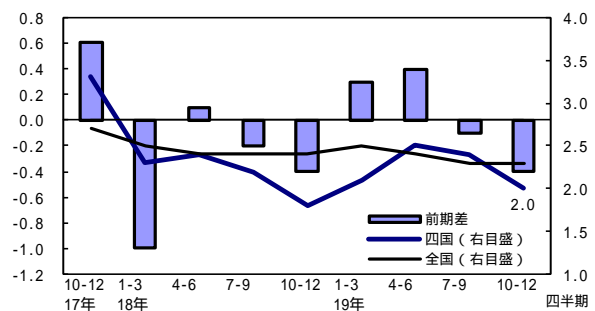
雇用情勢は改善している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率(季節調整値、就業地別)



完全失業率(季節調整値)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (2020年2月調査) 景気判断理由の概要

10. 四国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由	
現状	家計動向関連		・新型コロナウイルスだけが原因ではないが、来客数は減っている(一般レストラン)。	
		×	・新型コロナウイルスの影響が大きく、前年同月比で2割以上落ち込んでいる。なじみ客と話をしても必要以上に集まりや大会等の中止が増えているという話を聞く(商店街)。	
			・2月後半からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、来客数当たりの買上数量が増える傾向にある。来客数は伸びていないが、1人当たりの買上金額は上昇の傾向にある。外食の自重などが要因である(スーパー)。	
	企業動向関連		・特に新型コロナウイルスの影響により景気は悪い。受注が全然ない状況が続いており、将来が大変不安で仕方がない(電気機械器具製造業)。	
		×	・受注量や販売量の動きに大きな変化はない(一般機械器具製造業)。 ・消費税増税、暖冬の影響で秋冬製品の動きが悪い。さらに、新型コロナウイルスの影響で、インバウンドを中心とする観光関連や外食関連に追い打ちを掛けている状況である(化学工業)。	
	雇用関連		・新型コロナウイルスの影響で、合同企業説明会なども中止となっており、明らかに景気は悪くなっている(学校[大学])。	
		×	・派遣単価の値上げ対応が想像以上に進んでいる(人材派遣会社)。 ・1月の有効求人倍率は1.67倍で、3か月前と比較して増加している。しかし、前年同月と比較すると減少となっていることや企業整備情報が月に数件あるが大規模ではないこと、消費税増税の影響が余り出ていないことを総合的に考えて、変わらないと判断した(職業安定所)。 ・新型コロナウイルスの影響などで海外からの輸入品が欠品しており、増産傾向にならず派遣の依頼も減ってきている(人材派遣会社)。	
	その他の特徴コメント			：例年2月は衣料品関係が特に厳しい月だが、前年と比較してもここ3か月間ずっと厳しい状態が続いている。気温の暖かさもあるが、急に表立って出てきたのが新型コロナウイルスの問題である。当県で感染者が1人出たという話があり、一挙に萎縮している(衣料品専門店) ：新型コロナウイルスの影響で外出を控える人が多いと聞いている(美容室)
	先行き	分野	判断	判断の理由
		家計動向関連		・中国などアジア圏で製造輸入している商品が、新型コロナウイルスの影響で工場が休業しているため、入荷が困難になってきており、これから影響が出てくる(一般小売店[生花])。
			・例年は3～5月はお遍路客を乗せることが増え、売上が良くなるはずだが、新型コロナウイルスの影響で、お遍路のキャンセルが始めている。この先の見通しが立たないので、売上は現状維持である(タクシー運転手)。	
企業動向関連			・新型コロナウイルスの影響で、旅行関係客の販促や各種イベントの中止等の懸念材料が多く、景気は一時的に悪くなる(広告代理店)。	
		×	・新型コロナウイルスは建設業界にほとんど影響しないため、有り難い。ただし、会合や交流会、研修会などの人が集まる行為に制限が掛かり、気分的に景況感は低下してくる(建設業)。 ・新型コロナウイルスの影響で、中国から商品、原材料の入荷が止まる。自社製品の製造、仕入商品の供給ができなくなることが懸念される(食料品製造業)。	
雇用関連		・今後の新型コロナウイルス関連の状況が見えていないので景気の状態は不明である(学校[大学])。 ・業態の中にイベント運営もあるため、新型コロナウイルスの影響は少なからずある(新聞社[求人広告])。		
その他の特徴コメント			：新型コロナウイルスの収束がいつになるかで大きく変わる(旅行代理店) ：造船、産業用機械の受注、中国からの材料調達に新型コロナウイルスの影響がある(鉄鋼業)	

(D I) 現状・先行き判断D I (四国)の推移(季節調整値)

